

E エッセイ  
Essay.

## 母国に豊橋の魅力を伝えたい

豊橋親善大使(インドネシア スラカルタ市出身)  
プス・マヤ・ブディ

平成25年3月21日から3年間、豊橋親善大使を務めています。

私は2001年5月、日本人の夫と一緒に日本に来ました。来日当初は日本語が話せず、友達もいなくて毎日不安に思っていました。2、3年経った頃、生活家庭館で日本語教室があることを知り、間もなく豊橋市国際交流協会(TIA)の「にほんごきょうしつ」に通うようになりました。2005年に、当時の日本語の先生の薦めで、インターナショナルフェスティバルの日本語スピーチコンテスト(p.2~5参照)に参加しました。

スピーチのテーマは『私の夢』です。私は豊橋まつりで展示されている“子ども造形パラダイス”をみて、子供たちの創造力の豊かさに驚きました。その秘密は、絵本を読むことだと思ったのです。日本には、きれいでまだまだ読める絵本が沢山捨ててあります。私はそれをもったいない、いらなくなった絵本をもらってインドネシアに送り、母国の子供たちが絵本を読める児童館を作りたいと思うようになりました。その夢をコンテストで発表したことがきっかけで、「にほんごきょうしつ」の先生やTIA、桜丘学園の学生の皆さんから、多くの絵本を寄贈していただきました。いただいた絵本は、アルバイトで貯金したお金でインドネシアに送り、2006年に、実家の一室に夢の児童館を開くことができました。2009年には、新しく建てた家に児童館を移動させ、2年に一度、半年間の帰国の間、児童館をオープンしています。

また、フェスティバルではコンテストだけでなく、各国の歌や踊りが紹介されているのを知り、私もやりたいと立候補をしました。2007年のフェスティバルでバリ&ジャワの踊りを披露することができました。それを見ていた同じインドネシア出身の「にほんごきょうしつ」の生徒も一緒にやりたいと声をかけてくれたのです。私は、豊橋に母国の仲間が沢山いることを知り、嬉しく思いました。

その後、私の交流の輪は広がり、豊橋技術科学大学の留学生と一緒に母国の伝統舞踊を披露するようになりました。また、TIA主催の国際交流サロンの講師をはじめ、今では、豊橋だけでなく東三河の皆さんに母国の紹介をしています。

そして今回、豊橋親善大使のお誘いがありました。「インドネシアを沢山のの人に知ってもらえる。ぜひやりたい!」と、すぐに引きうけました。

大使となって初めての仕事は、平成25年5月、豊橋市役所にインドネシアからの訪問団が来豊した際、通訳を務めたことです。この大役に最初は緊張しましたが、正しく通訳しないと両市間で誤解が生じてしまうと思い、一生懸命がんばりました。

また、私はこれまで『日本の皆さんにインドネシアを紹介したい』と活動してきましたが、大使となり『豊橋の魅力をインドネシアに伝えたい』と思うようになりました。

今年の夏、インドネシアへ帰国します。その時に、児童館に来る子供たちに豊橋を紹介したいと思います。また、インドネシア各地には、豊橋技術科学大学に通うために夫婦で来豊していた人が多くおり、奥さんの中には折り紙等の日本文化を豊橋で学んで帰国し、活躍している人がいます。彼女らを訪ねて日本文化だけでなく、豊橋を紹介してもらえよう呼びかけたいと思います。

そして、私には新たな夢ができました。豊橋市をインドネシア語で紹介するブログを作り、母国の皆に豊橋をPRすることです。これまでたくさんの人に出会い協力いただき、児童館の夢を叶えることができました。ブログはまだ立ち上げたばかりですが、豊橋の魅力を伝えるためにがんばりたいと思います。



日本語の本の閲覧だけでなく、日本文化紹介の場でもある「マヤの児童館」